



令和元年度 アンケート調査 (せきのまちづくり通信簿) 調査結果 【結果報告書・概要版】

調査の目的

「令和元年度アンケート調査（せきのまちづくり通信簿）」は、総合計画に基づく関市のまちづくりをより着実に推進するため、まちづくりに関する市民意識等を把握し、市民の声を政策に反映することを目的として実施しました。

調査の概要

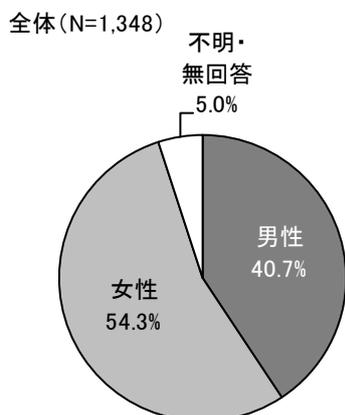
- 調査対象者 令和2年1月現在、関市に居住している16歳以上の市民3,000人
- 調査期間 令和2年1月27日から令和2年2月7日まで
- 回収方法 調査票による本人記入方式
郵送による配布、郵送による回収
- 回収結果 1,348票（回収率：44.9%）
- 報告書の見方
 - ・グラフ中の「N」とは、Number of Casesの略で、各設問に該当する回答者総数を表します。
 - ・グラフ中の「%」は、小数点第2位以下を四捨五入しているため、単数回答の設問（1つだけに○をつけるもの）であっても、合計が100%にならない場合があります。

1

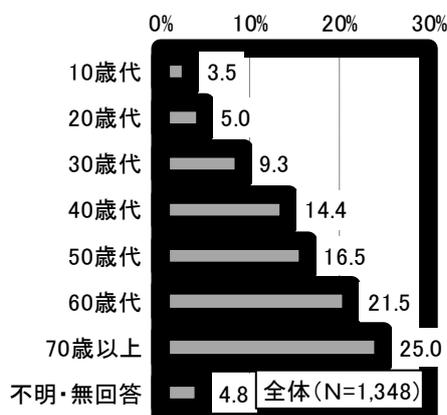
回答者の属性

回答者の性別は、女性がやや多く、回答者の年齢は70歳以上が最も高くなっています。また、回答者の居住地区は「関地域」で79.3%と高くなっています。

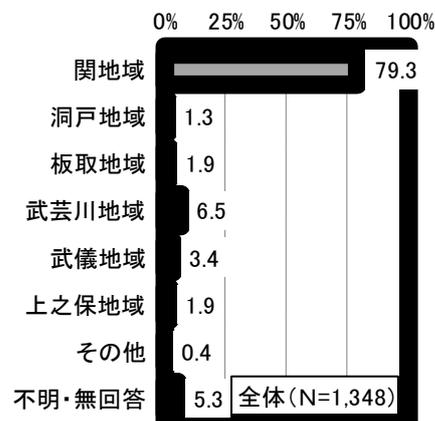
●回答者の性別



●回答者の年齢



●回答者の居住地区

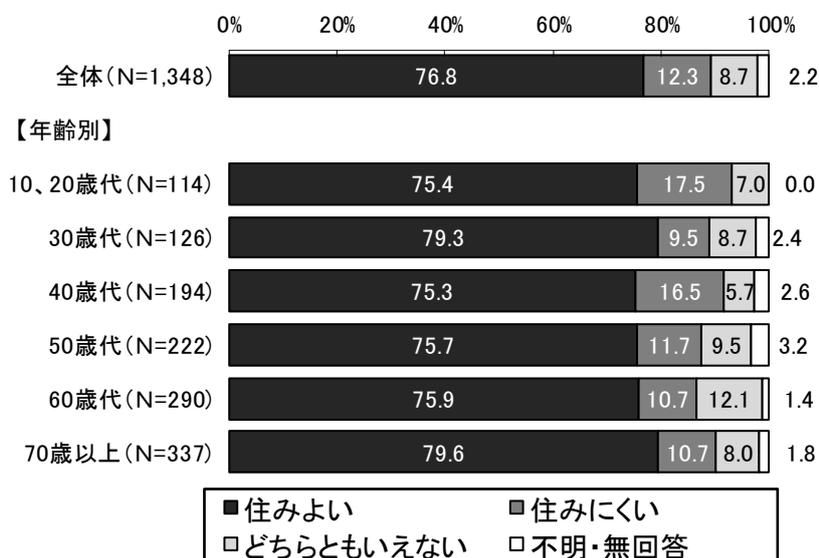


2

関市への居住意向について

回答者の76.8%が、関市を『住みよい』と感じています。年齢別でみると、いずれの年代でも『住みよい』が高くなっていますが、10、20歳代、40歳代ではやや『住みにくい』と回答する割合がほかの年代と比べて高くなっています。

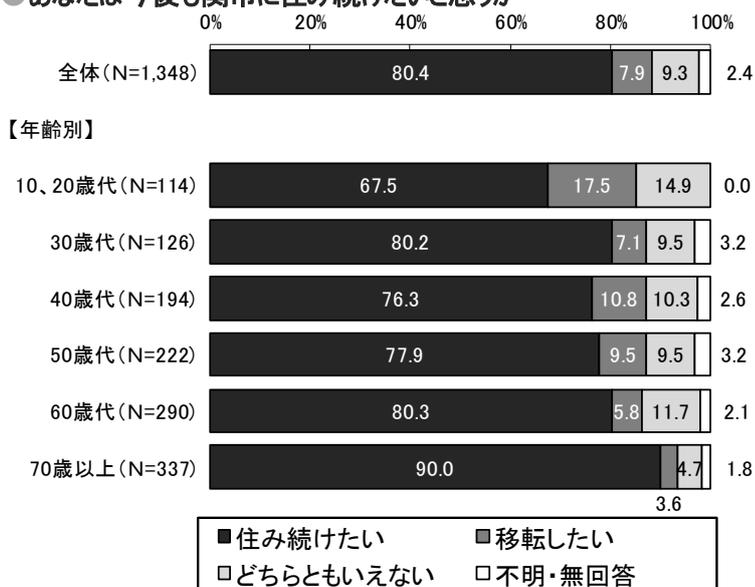
●あなたは関市が住みよいまちだと感じるか



※『住みよい』は「住みよい」と「どちらかといえば住みよい」の合算、
『住みにくい』は「どちらかといえば住みにくい」と「住みにくい」の合算。

関市への居住意向については、全体の80.4%が『住み続けたい』と回答しています。年齢別でみると、30歳代～60歳代では約8割、70歳以上では9割となっています。また、『移転したい』と回答した人にその理由をたずねたところ、「公共交通が不便だから」と回答する割合が76.4%と高くなっています。

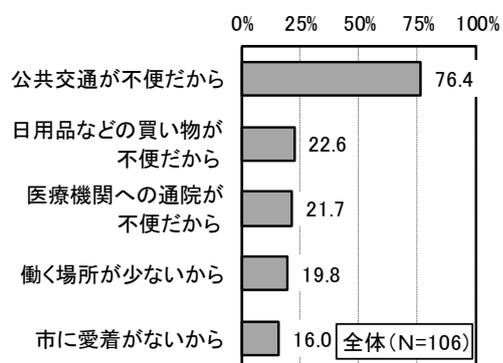
●あなたは今後も関市に住み続けたいと思うか



※『住み続けたい』は「ずっと住み続けたい」と「当分は住んでいたい」の合算、
『移転したい』は「できれば移転したい」と「すぐにでも移転したい」の合算。

●移転したいと感じる理由<上位5位>

(※『移転したい』を選んだ方)

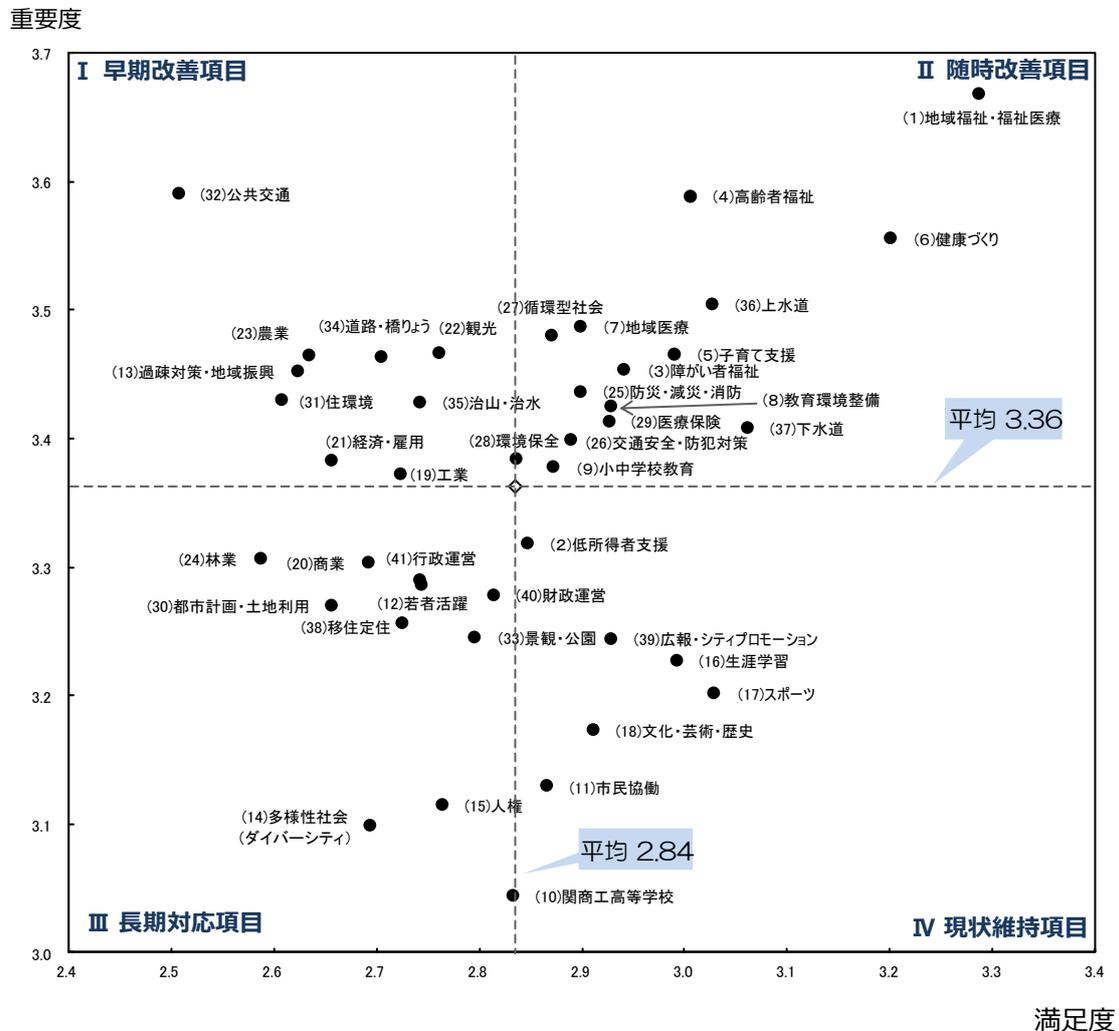


3

施策の満足度・重要度について

施策の満足度、重要度は次のようになっています。

● 施策の満足度・重要度のポートフォリオ分析



【重要度と満足度の関係】

<p><タイプ I>早期改善項目 (重要度は高いが、満足度は低い) ⇒現在の施策や事務事業を優先して改革・改善すべき施策の分野</p>	<p><タイプ II>随時改善項目 (重要度が高く、満足度も高い) ⇒今後も継続して事業に取り組めるよう、事業費が過大となっていないか点検するとともに、さらなる事業の効率化を検討する施策の分野</p>
<p><タイプ III>長期対応項目 (重要度が低く、満足度も低い) ⇒施策の重要性に対する認知を高めるとともに、取組の方向の改善を検討する施策の分野</p>	<p><タイプ IV>現状維持項目 (重要度は低く、満足度が高い) ⇒今後も着実に事業の推進を図るとともに、施策の重要性についての認知を高める施策の分野</p>

「<タイプ I>早期改善項目」に分類される施策には、「(32) 公共交通」「(13) 過疎対策・地域振興」「(23) 農業」「(34) 道路・橋りょう」「(22) 観光」などがあがっています。

4

まちづくりへの意識と取組について

●健康づくりへの取組について

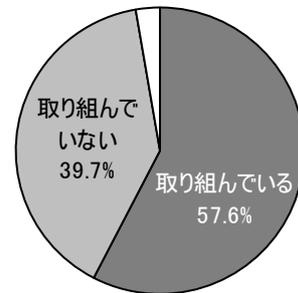
健康づくりへの取組について、『取り組んでいる』が57.6%、『取り組んでいない』が39.7%と、取り組んでいる割合が高くなっています。

※『取り組んでいる』は「取り組んでいる」と「どちらかといえば取り組んでいる」の合算

※『取り組んでいない』は「取り組んでいない」と「どちらかといえば取り組んでいない」の合算

全体(N=1,348)

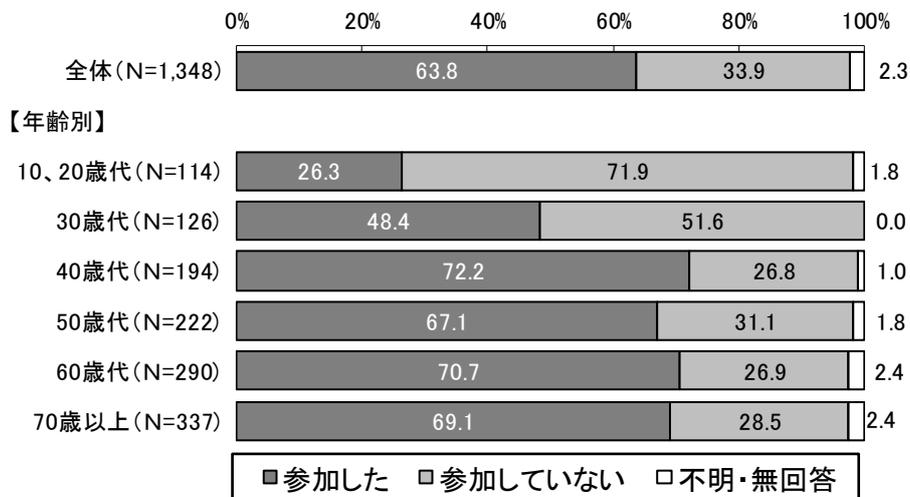
不明・
無回答
2.7%



●地域活動(地域委員会や自治会の活動など)への参加経験

地域活動(地域委員会や自治会の活動など)への参加経験について、全体では「参加した」と回答した割合が63.8%となっています。

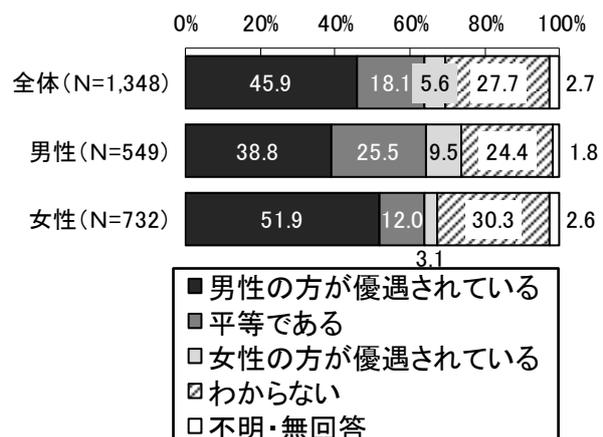
年齢別にみると、10、20歳代で「参加していない」と回答した割合が71.9%と、他に比べて高くなっています。また、40代以降は、「参加した」と回答した割合が約7割前後となっています。



●男女の地位の平等意識について

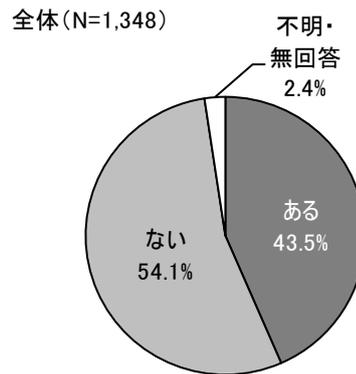
男女の地位の平等意識について、「男性の方が優遇されている」と回答した割合が45.9%と最も高くなっています。

男女別にみると、女性では男性よりも「男性の方が優遇されている」と回答した割合が高くなっています。



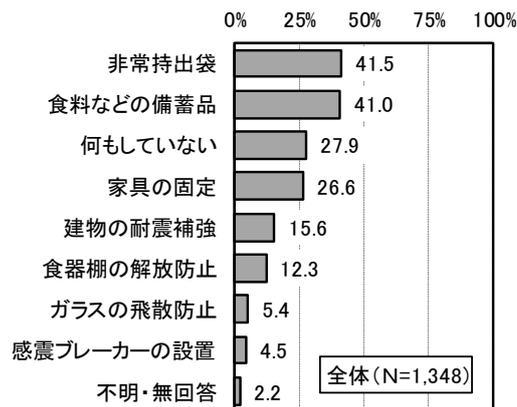
● 芸術文化鑑賞について

過去1年間の芸術文化を鑑賞した機会について、「ある」と回答した割合が43.5%、「ない」と回答した割合が54.1%と、「ない」が「ある」を上回っています。



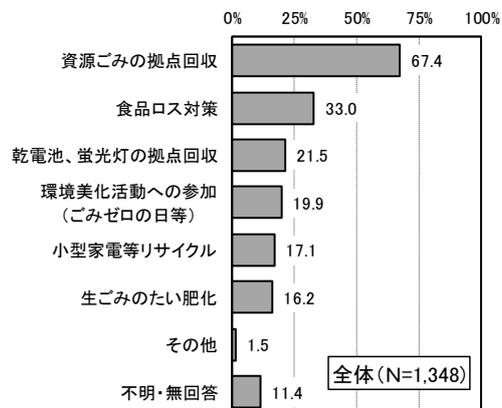
● 地震に対する備えについて

地震に対する備えについて、約4割が「非常持出袋」や「食料の備蓄」と回答しています。また、「何もしていない」と回答した割合が27.9%となっています。



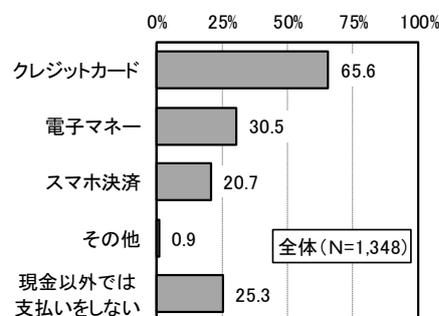
● 環境に配慮した取組について

環境に配慮した取組について、「資源ごみの拠点回収」が67.4%となっています。次いで、「食品ロス対策」が33.0%、「乾電池、蛍光灯の拠点回収」が21.5%となっています。



● 現金以外の決済方法について

現金以外の決済方法について、「クレジットカード」が65.6%と最も高く、次いで、「電子マネー」が30.5%となっています。「現金以外では支払いをしない」は25.3%となっています。

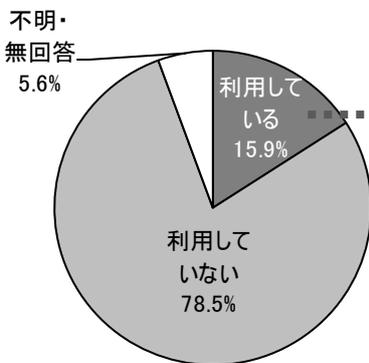


●市の公共交通の利用について

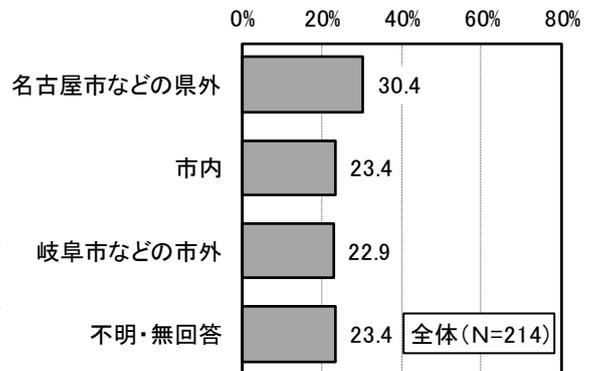
●公共交通を利用して主にどこに行くか(※『利用している』を選んだ方)

市の公共交通の利用について、『利用している』と回答した割合が15.9%、「利用していない」と回答した割合が78.5%となっています。また、公共交通を利用して行く場所では「名古屋市などの県外」が30.4%と最も高く、次いで「市内」が23.4%、「岐阜市などの市外」が22.9%となっています。

全体(N=1,348)



※『利用している』は「週に3日以上利用している」「月に数日利用している」「年に数日利用している」の合算



●市の公共交通の利便性について(全体・公共交通を『利用している』方)

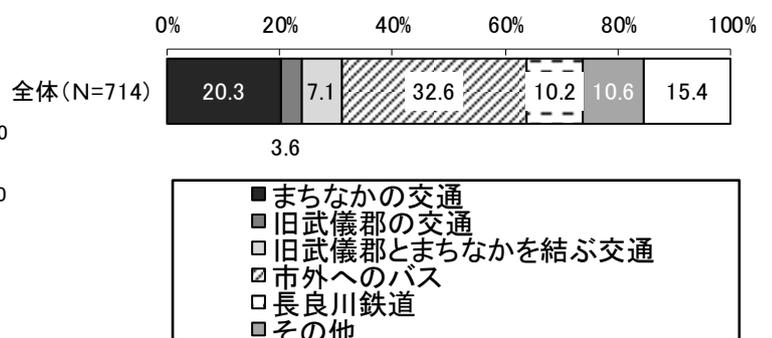
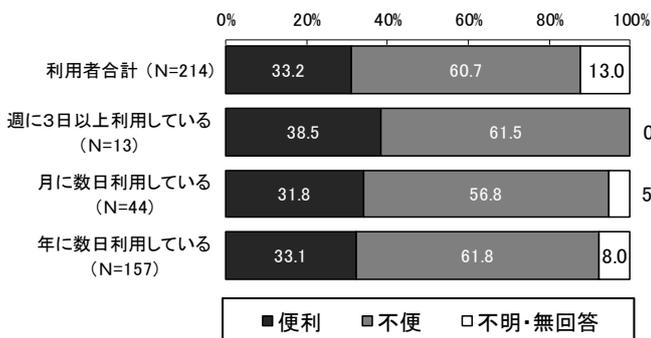
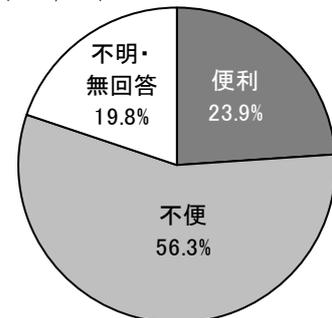
●市の公共交通の利便性について、具体的に不便に感じているところ(※『不便』を選んだ方)

市の公共交通の利便性について、「便利」と回答した割合が23.9%、「不便」と回答した割合が56.3%となっています。

市の公共交通を『利用している』と回答した方の、市の公共交通の利便性については、「便利」よりも「不便」の回答が高くなっています。

市の公共交通の利便性について、具体的に不便に感じているところは、「市外へのバス」と回答した割合が32.6%と最も高く、次いで「まちなかの交通」が20.3%となっています。

全体(N=1,348)



令和元年度アンケート調査(せきのまちづくり通信簿)【結果報告書・概要版】

発行年月 令和2年3月

発行 関市 / 編集 関市 市長公室 企画政策課

岐阜県関市若草通3丁目1番地 TEL:0575-22-3131(代表)

FAX:0575-23-7744